

北海道ドクターズゴルフ大会

特別寄稿

50歳を迎えた 北海道ドクターズゴルフ大会

北海道医師会会長
長瀬 清

第50回北海道ドクターズゴルフ大会が2016年7月3日、200名の会員参加のもと、札幌国際カントリークラブ島松コースで開催された。札幌市医師会の皆様のご努力で、盛会裏に終えることができ、感謝に堪えない。

多くの医師会行事の中、これほど多くの会員が参加し、親交を深める機会はあまりない。医師会会員増と団結力強化が課題となっている今、貴重な行事であると思っている。

本大会は1966年ゴルフブーム始まりの時期に創設された。中央、道北、道東、後志、日胆、道南ブロックの医師会が順次担当し、各地の名門ゴルフコースで開催されてきた。6回大会までは10月10日体育の日に、その後は6月の終わりか7月初めの日曜日が大会日となっている。参加者は開催地とゴルフ場の規模によるが200名前後、多いときには参加者が350名を超えたときもあった。名門コースでのゴルフが人気を博し、すべての希望者を受け入れられず、参加人数制限の場合もしばしばあった。申し訳なく思っている。

コースが全道域にわたっているため、参加を諦めざるを得ない場合がある中、50回すべてに出席された方がお一人おり、驚愕した。その方は札幌市医師会の土本廣一先生で、本大会に寄せる思いに頭が下がる。一口に50回というが、全回参加は容易ではない。第一に健康、またコースが毎年代わり、全道各地に出向かなければならないことを考えると、至難の業と言わざるを得ない。また、何度か優勝者としての名前も記録に残っているのも素晴らしい。向後も健康の許す限り連続出場記録を伸ばしていただきたいと願うところである。

会員の皆様に支えられての50年、これからもご支援のほどよろしくお願ひします。

北海道ドクターズゴルフ大会に 50回連続出場して



札幌市医師会
北ノ沢病院
土本 廣一

1966年私がゴルフを始めた年、第1回の北海道ドクターズゴルフ大会が催されました。「枯れ木も山の賑わいだから出場しなさい」と先輩ドクターから言われ、出場したのが始まりです。北海道ドクターズゴルフ大会の歴史が私のゴルフの歴史と言ってもいいでしょう。第29回大会の帰り道に、今は亡き中川哲二先生が「第1回から続けて出ているのは僕と君だ。この大会を盛り上げるためにこれからも頑張ろう」と言われ、連続出場を意識するようになりました。それまではコンペティターとして出場していましたが、「参加することに意義があり」に替わった年でもありました。

この大会は各地区の医師会が運営するようになってから、そのもてなし精神を競い合うようになり、素晴らしい大会になって参りました。前夜祭・参加賞等で大いに楽しませていただきました。私も札幌市医師会が担当したときは、執行部の一員としてどうやったら皆に喜んでもらえるかと頭をひねったものでした。

今までの大会参加賞の中で最も印象に残っているのは、函館市医師会の考えた「銀の耳かき」で、現在も手元に置いて愛用しています。それを使うたび、あの大沼の18番の長いロング、途中失敗があってグリーン横からの第5打目、ノーズロ・チップインパーとなったとき、同伴プレーヤーのびっくりした顔が思い出されます。

ゴルファーにとって、良いゴルフ場でプレーし、素敵な人たちと巡り会えるということは大きな幸せといえるでしょう。本大会がこれからも永く続くことを願う由縁でもあります。

2016年第50回北海道ドクターズゴルフ大会で50回出場のトロフィーを頂き、大変嬉しく思いました。何よりゴルフが好き、そして健康に恵まれたことが連続出場の快挙になったと思います。

北海道ドクターズゴルフ大会の今後ますますの発展を祈念いたします。